

# 研究所における幸福度研究の 現状と当面の作業予定

内閣府経済社会総合研究所

平成24年1月

# 作業の三本柱

1. パネル調査の実施などのデータ収集
2. 収集したデータを活用した研究
3. OECD幸福度・社会進歩測定作業への貢献

# 1. パネル調査の現状と作業予定

- 昨年12月下旬に調査実査の入札を実施。新情報センターが落札。調査名は「生活の質に関するパネル調査」。(調査仕様は資料2、調査票案は実査までは非公開)
- 設問留置法により、約1万名を対象に平成24年3月上旬に実査予定。来年度も実査の予算(1、2回程度)を確保。
- 問の数、もしくは、問の性質から設問留置法の調査でカバーしきれない問については、別途実施のインターネット調査でカバーする予定。(調査票案は実査までは非公開)。

## 2. 収集したデータを活用した研究

- 既に実施した「若年層調査」の結果を活用した研究が現在進行中。
  - 既出成果は内田、高橋、川原(2011)「東日本大震災直後の若年層の生活行動及び幸福度に対する影響」、New ESRI Working Paper No.24
- 幸福度指標試案に含まれる既存データの収集を委託調査で開始予定。
- 今後は、実施予定の調査結果を活用した研究を、幸福度指標試案の次元別を実施していく予定。成果は英文でも紹介し、国際広報にも活用していく予定。

### 3. OECD幸福度・社会進歩測定作業への貢献

#### ① OECDの作業の概要

- OECDは、ほぼ10年間にわたり幸福度・社会進歩測定作業を推進してきた。作業は以下の三つの領域に分類できる。
  - 独自研究：主観的幸福度測定ガイドラインの策定、グリーン成長指標、国民経済計算における格差の測定等
  - 普及活動：How's Lifeの出版、Your Better Life Indexの公表
  - 国際的な対話の推進：世界フォーラムの開催  
(参考文献：幸福度に関するアジア太平洋コンファレンス背景資料)

## ②これまでの当研究所の貢献

- 政策担当者、有識者がOECDにおける各種国際会議に出席し、我が国のイニシアティブ・意見を紹介するのをサポート
  - 末松前副大臣がYour better life indexが公表されたOECDフォーラムにパネリストとして参加し、意見交換
  - 西村周三国立社会保障人口問題研究所長がHow's Lifeが公表された仏OECD共催の会議にパネリストとして参加し、意見交換。
- OECDと共催で幸福度に関するアジア太平洋コンファレンスを開催。
- OECD統計委員会、同専門家会議に積極的に参画し、How's Life等の作成に貢献。

## ③ -1当研究所の今後の対応方針

- OECDにおける独自研究への貢献の継続
  - 主観的幸福度測定のガイドラインのドラフトに対し、我が国の主観的幸福度の測定方法における知見をインプットする。具体的には、
    - 人生満足度だけでなく、主観的幸福感についてもガイドラインから排除されないことがないよう、研究成果を活用しつつ、交渉していく。
    - 助言グループへの日本からの参加者を検討する。
  - 幸福度の次元について、家族や自然とのつながりなどアジア的な視点が加わるように、研究成果をインプットする。
  - 国民経済計算における格差の測定専門家会合への参画を継続する。

## ③ -2当研究所の今後の対応方針

- OECDにおける普及活動・国際的対話への貢献
  - OECD等で開催される主要な国際会議において我が国の意見を表明する政策担当者、有識者への研究面での支援を継続する。
  - インドで開催される世界フォーラムのアジェンダ等に、アジア太平洋コンファレンスの成果が活用されるよう、OECD事務局等との対話を継続する。
  - 世界フォーラムに参画する。



## ④今後のスケジュール

- ✓ 3月1日: OECD統計委員会拡大ビューロー
- ✓ 5月下旬: OECD閣僚理事会、OECDフォーラム
- ✓ 6月: OECD統計委員会(主観的幸福度ガイドライン等)
- ✓ 10月16-19日: 第4回統計、知識、及び政策に関するOECD世界フォーラム(於ニューデリー)